

議事録（要旨）

議事名	第3 1回おいしい水づくり推進懇話会
日時	令和2年3月10日（火） （企業局幕張庁舎2階特別会議室にて午後1時30分から開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催に変更。）
<p>○議題1 第2次おいしい水づくり計画に関する令和元年度の取組</p> <p>1 おいしい水づくりの技術的な取組</p> <p>（1）残留塩素低減化</p> <p>資料(p1)により、令和元年度幕張給水場の配水区域において実施した残留塩素低減化試験の結果を紹介。</p> <p>構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。</p> <p>（構成員）残留塩素低減化が臭気強度の低減にある程度効果があるなら、今後とも残留塩素低減化を進めていただければと思います。</p> <p>（企業局）お客様に安全でおいしい水道水をお届けできるよう引き続き残留塩素低減化に努めてまいります。</p> <p>（2）カルキ臭の調査・研究</p> <p>資料(p2-5)により、塩素臭を含む臭気強度と水質項目との解析結果、残留塩素低減化試験に併せて実施した調査結果を紹介。</p> <p>構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。</p> <p>（構成員）浄水場によっては残留塩素低減化で臭気強度の低減にある程度効果があるようですが、あとどのくらい塩素を減らせるのか分かりませんが、それに見合った臭気の減りがあるのか少々気になりました。データも集まってきているようですので引き続き調査をお願いします。</p> <p>（企業局）1月からの調査結果についても、次回の懇話会でご報告できればと考えております。なお、残留塩素低減化が臭気強度の低減にどのくらい寄与するか分かりませんが、アンケートの結果などから見ますと、これまでの取組により塩素を感じない人の割合が増えていることから、一定の効果はあると考えております。</p> <p>（構成員）「塩素注入率の低減が臭気強度の低減に寄与」とのことについては得心できました。そうなるかと疑問ですが、「3（1）水質検査体験」における「水道水の飲み水としての満足度」のアンケート結果について、資料17ページの下から4行目に「…検査時期（8月）の方が、水温が高いことや、残留塩素濃度が最夏期設定で高いこと…」とあります。試験頻度が各地点3か月に1回とありましたが、臭気強度試験を最夏期に行くと、臭気強度も高くなると解釈してよろしいでしょうか。</p> <p>（企業局）ご意見のとおりで、今回の調査では、調査頻度が3か月に1回ということもあり、水温に対して関連性を確認できたのは柏井浄水場西側だけでしたが、最夏期で行うと臭気強度も強くなる可能性はあります。</p> <p>（構成員）「塩素臭を含む臭気強度」の調査員は、全箇所同じ方々が行っているのでしょうか。何か基準になる試料（臭気強度XX値）を全員で確認して試験を行っているのでしょうか。</p>	

議事録（要旨）

(企業局)調査員は検査の都度、全て同じ職員ではありませんが、水質センターの職員が実施しております。また、臭気強度は、個人差を考慮して測定者全員の平均値としております。

なお、臭気強度の算出方法については、参考資料のとおり4段階の希釈倍率（30倍、10倍、3倍、1倍）により水道水をにおいの無い水で薄めていき、においを感じた希釈倍率はその人の臭気強度となります。基準となる試料は、無臭水が臭気強度0ということになりますが、臭気強度がいくつというような標準試料はありません。

(構成員)参考までに全調査箇所の臭気強度と塩素注入率の関係を見たいと思いました。

(企業局)臭気強度と塩素注入率（前日、前々日）の相関係数は、栗山が前日は-0.17、前々日は-0.21、柏井西が前日は0.49、前々日は0.52、北総が前日は0.64、前々日は0.39、福増が前日は-0.14、前々日は0.52でした。

(構成員)残留塩素低減化試験に併せた臭気試験の結果について、夏期の低減化前に比べ低減化第一段階の方が、臭気強度が全箇所で増加していたのが気になりました。

(企業局)ご指摘の件について、正確な要因は不明ですが、この時期に天候が不安定だったことが影響し、原水水質が変化したためではないかと考えています。

(3) 貯水槽水道巡回サービスについて

資料(p6-9)により、平成28年度から平成30年度の点検結果やサービスの効果、令和元年度の新たな取組を紹介。

構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。

(構成員)貯水槽水道巡回サービスについては、素晴らしい取組であると考えます。浄水場等でどれだけ美味しい水を提供しても、末端である貯水槽で安全性が低くなってしまっただけの意味がありません。これからも指摘事例を紹介するなどして、貯水槽の適正管理を広く周知する必要があると考えます。

(企業局)「指摘事例を紹介する」との御意見は、貯水槽の適正管理を広く周知する上で有効な手段であることから、当局HP等への掲載を検討していきます。

(構成員)残留塩素低減化の取組は、カルキ臭を低減する上での取組と認識しました。一方、適正に管理されていない貯水槽が存在し、それらの貯水槽で残留塩素が消費されてしまう懸念もあり、衛生面でのリスクとのバランスが大切と思いました。そういった点で、適正管理されていない貯水槽の監視、指導が今後必要と思います。

(企業局)引き続き、貯水槽の適正管理に向けて指導・助言を推進していきます。

(構成員)古いマンションなどでは貯水槽設置が多いと思いますが、巡回中に貯水槽と水道メータの間で残留塩素の計測はできませんか。お客様の所有物なので難しいでしょうか。そこで残留塩素濃度が水道法で下限の0.1mg/Lを下回っている場合に塩素が自動で追加できるようになれば、残留塩素濃度0.4mg/Lを超えることもなくおいしさが体感できると思うのですが、いかがでしょうか。

(企業局)「貯水槽と水道メータの間で残留塩素の計測はできませんか。」との質問ですが、メータと貯水槽の間には通常、水栓が設置されていません。なお、現在実施してい

議事録（要旨）

る現地点検では、貯水槽内と貯水槽以下の水栓の2箇所から採水し、残留塩素を計測しています。

「0.1mg/Lを下回っている場合に塩素が自動で追加できるようになれば」との御意見ですが、塩素を自動追加する設備の導入にあたっては、設置費用や日常管理が必要となることもあり、お客様の判断となります。

当局としましては、貯水槽を適正管理していただけるよう、引き続き設置者等に指導、助言していきます。

(構成員)貯水槽水道巡回サービスは、集合住宅に以前住んでいた者として嬉しく思うサービスです。集合住宅の場合、修繕積立金、管理費の関係上、マンションの管理組合側が貯水槽の不備を行政側に指摘されてもすぐに修繕を行えません。また不備を指摘されたくないとの思いから巡回サービスを拒む可能性もあります。第三者の視点で施設を点検してもらうことは水道利用者の安心につながります。資料7ページにある点検内容を伝える時に、優先順位、出来れば修理に要するおおよその金額を提示すると、修繕の計画も立てやすくなり抵抗感も少なく済むようになると思います。

(企業局)優先順位については、現在、判定結果を基に点検内容を伝える際、当局から以下のとおり説明しております。

C：早急な改善をお願いします

B：注意又は改善が必要です

A：問題はありません

引き続き、優先順位が分かりやすい丁寧な説明をしていきます。

また、修理に要するおおよその金額については、修理内容や規模により金額が異なり、一概にお答えすることができないため、複数の工事業者に見積をとり、御検討いただくよう御案内する等、引き続き丁寧に説明していきます。

(構成員)資料8ページに貯水槽設置数の減少と直結給水の割合が増加した結果が示されておりますが、これは貯水槽水道巡回サービスの効果なのでしょうか。その際に、啓発をしていたのでしょうか。

(企業局)貯水槽水道巡回サービスでは、適正管理の啓発と併せて、直結給水のメリットなどを貯水槽設置者等に直接PRや当局ホームページ等に掲載し、広報しています。これらの取組が、設置者等に直結給水転換への動機づけの一つの要因となり、増加へとつながっていると考えています。

(構成員)貯水槽の直結給水転換の推奨は重要だと思います。

2 安全でおいしい水キャンペーン

(1) 利き水

資料(p10-12)により、令和元年10月20日(日)に幕張メッセで開催された「エコメッセ2019inちば」において実施した利き水(水道水とミネラルウォーターの飲み比べ)の結果を紹介。

構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。

議事録（要旨）

(構成員)市販のミネラルウォーターと水道水の味の識別が困難であることを体感する機会を設けることは、「おいしい水道水」の啓発には良い取組と考えます。

(構成員)利き水や水道出前講座など、消費者が水道水と直接触れる機会を設けることは有益であると考えます。水道水よりミネラルウォーターをよく飲む年代や地域を洗い出し、そこに重点的にアピールをしていくことで、より水道水の消費量を上げることができるのではないかと考えます。

(企業局)インターネットモニターアンケート等から、水道水の飲用に関する年代別や地域別の分析について検討します。

(構成員)利き水で水道水のイメージアップにつながっているのは良いことだと思います。水温を指摘されるのは、おそらく「試されている。」と感じるからではないかと思えます。間違っても私の味覚のせいではないと。プライドというか間違ったことを気にする人は気にすると思えます。

(企業局)水道水とミネラルウォーターを氷水で十分冷やせば同じ水温に調整できますが、提供のタイミング等により多少の水温差は生じてしまうようです。それでも、利き水を始めた頃に比べると、大分水温の差を指摘されることも少なくなりましたので、今後も水温差を少なく提供できるよう努めてまいります。

(構成員)午後の利き水結果では、なぜ水道水よりミネラルウォーターの方が評価が高かったのでしょうか。

(構成員)午前と午後で結果が違う要因を、気象条件や昼食の前後の影響と書かれていますが、対象の年齢構成はいかがでしたか。味覚と年齢は関係があると思えます。

(企業局)午前、午後とも20歳未満と40代の割合が高く、25%程度でした。午前と午後で大きく異なったのは、年代別では唯一、午前・午後とも水道水の方をミネラルウォーターよりも高く評価していた70歳以上の割合が、午前は16%なのに対し午後は5%となりました。そうした年代分布が異なったことも、利き水の結果に影響を与えた可能性があります。

(構成員)人間の感覚は、そんなに精度の高い人は多くなく、もしかしたらもう一度利き水をしたら違う結果になるかもしれませんよね。実際は、水道水もミネラルウォーターも大差無いのかもしれないですね。利き水は「百聞は一見に如かず」で、何よりのPRとなったと思えます。今後とも機会を見つけて一人でも多くの方々に体験していただきたいです。

(企業局)午前と午後で結果は異なりましたが、点数に大きな差はありませんでしたので、利き水に参加された方には、ミネラルウォーターと大差がないくらい水道水が良くなってきているということは知っていただけたかと思えます。それが、「利き水による水道水へのイメージ変化」のアンケート結果につながっていると思えます。

(構成員)経年的な結果を示すことで、「おいしい」と感じる方の数の増減が把握できると思えます。

(企業局)令和元年度は、残留塩素濃度の違いによる比較を行うため、ちば野菊の里浄水場の配水池と古ヶ崎系による利き水を初めて試みました。今後も同様の調査を行うか

議事録（要旨）

は未定ですが、次の機会があれば今回の結果と比較したいと考えています。

（構成員）利き水による水道水へのイメージ変化のアンケート結果なぜ悪いイメージのままなのか、あるいは悪くなったのか、コメントを見てみたいと思いました。

（企業局）「悪いイメージのまま」と回答された方の中には、「水道水の方はにおいがした」とのコメント（2名）がありました。

（構成員）ミネラルウォーターと水道水の利き水は、水道水がおいしくなったのを直接わかる方法なので、継続が必要だと思います。

（2）オフィシャルサイト

資料(p13)により、令和元年度の更新状況とアクセス数を紹介。

構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。

（構成員）アクセス数について、平成 29、30 年度は似た傾向が見られましたが、令和元年度の 9 月、10 月のアクセス数が顕著に増えたのは台風が影響したせいでしょうか。そうだとするならば、今後気象等で水道水が受ける影響、水道利用者の知りたい情報を迅速に提供したからではないでしょうか。今後さらに情報発信が肝要になってくると思いました。

（企業局）令和元年度の 9 月、10 月で特にアクセス数が上昇したページがないため、台風による影響であると特定できませんでしたが、おそらく台風に伴い水道に関する情報を多くの方が閲覧したことにより、アクセス数が増加したものと考えられます。今後も、お客様の求める情報を提供できるよう努めてまいります。

（3）水道出前講座

資料(p14-15)により、令和元年度の実施状況と参加促進に向けた取組を紹介。

構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。

（構成員）小学生向けの水道出前講座を子どもが初めて受け、ポタリちゃんというキャラクターを認識し、その後クラスでもポタリちゃんの話で盛り上がり、講座自体も楽しかったと言っていました。小学校の都合もあると思いますが、可能であれば夏休みの自由研究に生かせそうな資料などを用意していただけると、より理科目線で楽しめると思います。

（企業局）水道出前講座をお子様たちに楽しんでいただけたようで嬉しく思います。令和元年度は、夏休みの自由研究に活用していただこうと、お客様からの関心が高い「硬度」についてオフィシャルサイトで紹介しました。引き続き、水道出前講座でオフィシャルサイトや水質検査体験を紹介し、夏休みの自由研究に役立てていただきたいと思います。

3 お客様とのコミュニケーション

（1）水質検査体験

資料(p16-22)により、令和元年度の水質検査体験の実施状況と過去 4 回分（平成 28～令和元年度）の比較について紹介。

構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。

議事録（要旨）

(構成員)水道水に関する意識調査を行い、水質全般に関するヒアリング結果を今後の取組に反映することができる良い取組と考えます。

(構成員)お客様に水質検査を行ってもらい、安全性を確認していただくことで水道水を飲んでも安心ということが分かってもらえると思うので、この活動はこれからも続けていくと良いと思いました。私もそれで安全性が分かり、積極的に水道水を使うようになりました。

(企業局)お客様御自身で水道水の安全性を確認できる機会となっているようですので、今後も続けていきたいと考えています。

(構成員)例えば、平成30年度と令和元年度の両方に参加している方の割合はどのくらいでしょうか。

(企業局)令和元年度の参加者187名のうち、平成30年度も参加されていた方は22名で、割合は12%でした。

(構成員)資料18ページ最後の行に「…4項目については、当局の取組を紹介した資料を参加者へ送付し、啓発に努めた。」とありますが、その資料で不安を感じた方は納得されたのでしょうか。せっかく資料を送付したのなら、その結果不安が軽減したかどうかは知りたいところです。

(企業局)令和元年度と平成30年度の両方に参加された22名の申込時における「水道水の安全性」に関するアンケート結果を比較したところ、平成30年度では「安心である」が4名、「まあまあ安心である」が16名、「やや不安である」が2名であったのに対し、令和元年度では「安心である」が11名、「まあまあ安心である」が10名、「やや不安である」が1名と評価が向上していました。「水質検査体験」による体験や配布資料を通して、水道水の安全性について啓発ができていると考えています。

(構成員)「水質検査体験」の応募者が伸び悩んでいるとのことでした。梅雨時には「食中毒予防」、夏季は水不足であれば「節水」のポスター、猛暑となれば「熱中・脱水症予防」ポスターなど水に関するポスターが掲示されます。そのポスターに「気になりますか？あなたのその水…自分で調べてみよう…」のようなキャッチコピーで水質検査体験募集してはいかがでしょうか。

(構成員)新聞購読者が減り広報を知る機会が減っていると思うので、電車内やバス車内の広告やLINEアカウントで周知する方法はどうでしょうか。

(企業局)「水質検査体験」の募集については、県水だより、ホームページ、ツイッター、水道出前講座、水道週間のイベントなどによる広報の他、募集期間を長めに設定するなど工夫していきたいと考えています。

(2) インターネットモニターアンケート

資料(p23-30)により、令和元年度の調査結果を紹介。

構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。

(構成員)アンケート結果からも臭いについてはあまり気にならない人が多くなっていると思います。残留塩素低減化や水道水のイメージアップとつながって、水道水をおいしいと感じる人が増えていると思うので良いと思います。

議事録（要旨）

（構成員）資料 29 ページ（設問-11）の回答で、水道水の安全性を伝える方法として「県水だよりなど広報紙」が最も多く挙げられており、Twitter などの SNS はかなり少なくなっています。回答者の年齢層に 10 代・20 代が少ないだけなのかもしれませんが、今後も広報紙や水道出前講座といった地域に根付いた宣伝手法に力を入れるべきであると考えます。広報紙や SNS にあまり触れない小学生をターゲットに水道出前講座を行うことは、親子間のコミュニケーションを生み、家庭における水道水消費に影響を与える可能性があるため、有用ではないかと思えます。

（企業局）今後も、広報紙「県水だより」や水道出前講座によるおいしい水づくりの PR に力を入れてまいります。

○議題 2 その他

今後の「おいしい水づくり計画」について

別紙 1 により、令和 3 年度以降のおいしい水づくりに向けた取組の検討作業の参考にするため、「安全性」と「おいしさ」についての感想、「これからの「おいしい水」に期待すること」、「新たな取組・目標について」の 3 つのテーマについて、自由に意見を賜った。

構成員からの質問・意見及び当局の回答は以下のとおり。

●「安全性」と「おいしさ」についての感想

（構成員）水道水には、おいしさも必要な要素であるとは考えますが、日常的に使用する水道水には、衛生的であることが最上位の要素であると考えます。貯水槽の管理状態なども考慮した上で、安全な目標値が設定されることを希望します。

（構成員）子どもに「千葉の水道水は安全で美味しい」という話をしていたら、「そもそも水って味が無いからおいしくないよ。ジュースやお茶はおいしいけど」と言われてしまいました。「おいしくないものをおいしいと言われると逆に嘘っぽい、大げさだなと感じてしまう」とのことでした。「水が安全なのは浄水場の見学で学んだのでわかるけど、おいしいとは思わない」という言葉を聞いて、味の無い水をおいしくないと思っている人は塩素を減らしたところで「おいしい」という考えに傾く割合が大幅に増えるとは考えにくいので、残留塩素は 0.4mg/L まで減らさなくてもいいのではないかと思いました。低コストで減らせて安全も保障されるのであれば話は別ですが、コストがかかるようなら今のままでも良いように思いました。

（構成員）個人的な経験ではありますが、昔から千葉県に住んでいる人に話を聞くと、水道水はかなり良くなったという意見が多く見られます。しかしながら、他県から来た人は「千葉の水は美味しくない」、「飲まない」という方が多いです。臭気強度と残留塩素の相関性が高いことから、今後も残留塩素の低減化を進めるべきであると考えます。

（構成員）末端の水まで水道水としての安全性を保持するために、残留塩素の目標値は 0.4mg/L で良いと思います。おいしさの問題は、味覚の個人差もあるし、13 年前の頃とは格段においしくなっているので、評価も確実に上がっていますよね。引き続き、高度浄水処理の拡充や水道管の取り換えを進めていただければと思います。

議事録（要旨）

（構成員）残留塩素の目標値は 0.4 mg/L を継続したほうが良いと思います。カビ臭さや水道管などの設備の古さを気にしている方が多く、資料 26 ページのアンケートを見る限り「塩素臭い」という意見も多いですが、塩素はできるだけ低く安全性を保つラインをキープしている努力をしているということをアピールすることで、安心するお客様も多いと思います。

（構成員）今も残留塩素低減化を頑張っているようですが、目標値の 0.4mg/L という数値は技術的には難しいでしょうか。現実的でない数値を目標にしてもいいのか、目標だからそれでよいのか、私もよくわかりません。

（構成員）塩素注入率と臭気強度と関係から、残留塩素の目標値 0.4mg/L の目標継続でよいと思います。ただ、臭気の原因は残留塩素のみではないので、今後は臭気についてさらに科学的に考える必要も出てくると思います。

（構成員）資料 10-11 ページにも示されている通り、残留塩素濃度が 0.3 mg/L（配水池）の水道水を飲んでおいしいと感じる方の数が約半数程度ですので、目標値 0.4 mg/L に固執しなくてもいいとは思いますが、しかし、安全とおいしさの残留塩素の境界がちょうど 0.4mg/L（安全性：夏期に末端で 0.4mg/L 以上残留塩素濃度を確保、おいしさ：蛇口での平均残留塩素濃度 0.4mg/L 以下）ですので、目標にするには根拠もあり良い値なのではないかと思えます。何か難しい目標があることは良いと思えます。

（企業局）御意見ありがとうございます。おいさと安全性を考慮しながら、残留塩素の目標値と低減化について引き続き検討してまいります。その他の技術的な取組についても、今後も継続する方向で検討してまいります。

（構成員）残留塩素濃度の目標値を 0.4mg/L までできるのか、必要なのかについて、引き続き検討していただければと思います。

●これからの「おいしい水」に期待すること

（構成員）現状の水道水の水質に満足しています。あえて挙げるとすれば、水源の水質浄化の取組に期待します。

（構成員）毎日何の支障もなく、一定の水質で利用できる「おいしい水」を期待します。この状況を維持するために、水を利用する側に心に留め置いてほしいことを PR してもらいたいと思っています。また、公衆衛生の点から利用しやすい適正な料金も大切だと思います。

（企業局）安定した水質の水道水を供給できるよう、引き続き水源の保全について関係機関と協力していくとともに、利用者への PR もしていきたいと思えます。また、計画の推進にあたりコストを考慮することも重要なことと考えております。

（構成員）安全性をこれからも維持し続けてほしいです。

（構成員）コロナウイルスがパンデミック宣言の少し前から、スーパーで紙類だけでなくペットボトル水が一時的になくなりました。水道水の安全さは何も変わっていませんが、災害が起きたときにはストックを増やしたくなるものだと実感しました。おいしさもちろん大事ですが、安全安心な水道の安定供給のアピールも期待しています。

（構成員）今は、水道水は浄水器を通して飲むものと思っている子どもも多いのかなと

議事録（要旨）

思います。子どもが小学校の水道水をおいしく飲めるようになると良いと思いました。（企業局）水道水の安全性はもちろんのこと、安全性について積極的にアピールしてまいります。また、水道水は直接飲めるということをPRしていくのも重要と考えております。

（構成員）塩素多点注入方式や高度浄水処理といった技術の導入とともに、貯水槽の適正管理指導といった、より消費者に近い場所での取組を進めていただきたいと思います。

（構成員）水道水の安全性を第一に求めます。水道水の悪いイメージとして「塩素臭」が挙げられると思いますので、残留塩素低減化を今後も進めていくべきではないかと思っております。資料28ページにも示されている通り、高度浄水処理の導入を求める意見がありますので、これらを推進していければと思います。これについては、千葉県営水道をアピールする上でも重要と思っております。

（企業局）引き続き、残留塩素低減化と高度浄水処理の拡充について検討してきたいと思っております。また、貯水槽の適正管理も進めていきます。

●新たな取組・目標について

（構成員）お客様とのコミュニケーションなどの取組で、水道水の安全性はどんどん広まっていると思うので、今後は水道水の活用法を広める活動をしてはどうでしょうか。例えば、紅茶にはミネラルウォーターより水道水のほうが適しているとか、沸騰させずに水出しでも安心してお茶が作れるなどの情報を積極的に発信するなど。昔はやかんでお湯を沸騰させてから麦茶を作っていたようなイメージがあるので、試飲の時に水出しで作ったお茶を提供するなどしても良いかもしれません。イベントの時にミネラルウォーターと比較するのではなく、水道水の飲みやすさを純粋に伝える活動もしてみたらどうでしょうか。試飲するのは水道水、水道水を使って入れた紅茶、水道水で水出ししたお茶を体験して楽しんでもらうイベントを行うなど。水道水で作ったペットボトルがあるならば、水道水で作った炭酸水も飲んでみたいですね。

（企業局）イベントなどで、水道水の飲みやすさなどをPRすることは重要と考えております。

（構成員）首都直下地震や台風被害による停電のために水の供給が止まることに備えて、飲料水の備蓄やトイレ用にお風呂の水を貯めておくなどの具体的な情報も県水だよりも繰り返し掲載して欲しいです。去年の台風被害で、職場である大規模マンションが停電のために断水して、敷地内の直結水道に大勢の人が並んだり、トイレが使えなかったりして水の有難さを改めて実感しました。管理組合でも非常用発電機の定期点検を実施したり、水の備蓄を考えたりしているが、個人個人で出来ることの情報が必要だと思っております。

（企業局）「おいしい水」に関することと同様、災害対応の啓発も重要であり、引き続き情報提供していきたいと考えております。

（構成員）今後もポタリちゃんやWEBのコンテンツ、ツイッターなどを駆使して安全でおいしい水をアピールしていただきたいと思います。その安全性に揺らぎがないよう

議事録（要旨）

皆が安心できる水道水の提供をお願いしたいと思います。

(構成員) 今回の資料から、「おいしい水」については水道利用者から一定の評価を頂いていることと、今回新型コロナの流行で「水道水に新型コロナが入っている」との詐欺電話があったとのことなどから、今後は「安全な水」に重点をおいて取り組んでほしいと思います。

(企業局) 引き続き、安全性のPRとともに、その根拠となる技術的取組をしっかりと進めてまいります。

(構成員) 具体的な目標を提言することはできませんが、「千葉県の水道水はおいしくない」という意見が多く見られるので、他県との比較を行うのも良いのではないかと思います。導入技術や他県の取組を分析したり、実際に飲み比べや臭気判定を行ったりすることで、千葉県営水道の特徴の明確化や味の向上に繋がるかもしれません。

(構成員) 臭気強度測定のための精度を高めるための取組が必要かもしれません。資料2ページにも示されているように、データのばらつきが大きい箇所もあり、また残留塩素との相関性も低いからです。高度浄水処理の導入を求める声が多数寄せられております。当然コストはかかるかと思いますが、安全とおいしさ面から考えても、高度浄水処理を導入する利点は多くあるかと思えます。

(企業局) 臭気強度の扱いについて、引き続き検討していきたいと考えております。また、高度浄水処理のことなどをPRできないか検討してまいります。